

入選

当たり前のように

矢吹町立矢吹中学校 三年 吉田よしだ 蒼そう

僕の一日は、朝起きることから始まる。僕の場合

は、その後にトイレへ行き、顔を洗い、朝食を済ます。そして、歯をみがき、着がえをしてから、学校へ行く。僕はサッカー部に入っているので、朝練をやる。水を飲む。朝起きてから学校の中へ入るまでに、何回水を使っただろうか。数えてみたところ、四回ほど使っている。その中で、料理や洗濯などで使う水も合わせると、四回などでは収まらない。歯をみがく時もそうだ。一日に三回はやると考えて、百歳まで生きると考えると、十万回は軽く超えてしまふであろう。

このように、僕たちは、毎日、膨大な量の水を使っている。水は、これから生活していく上でもなくてはならない物だと思う。だから、これからも、水を大切にしていこうと思う。

だが、そんなことは当たり前である。

水を大切にすることは当たり前だ。小さい頃から「水を止めなさい。」「少ない量を使いなさい。」などと、頻繁に言われてきた。ましてや、最近SDGsなどで、水への節約がさかんに呼びかけられている。このような状況の中で、「大切にしよう。」と思わない人がいるとは思えない。今、考えるべきは、対策と、その対策の実行だと思う。

初めに書いた朝やることで考えると、顔を洗う時に水をあまり出さないこと、歯をみがく時に水をこまめに止めること、飲める量の水を持っていくことなどを考えた。これらのように細かく考えることで、何をすべきか明確になるため良いと思う。

次の日に、これらを実行してみた。試してみると、あまり不便と思わなかった。

考えてみたところ、僕の場合は、一番水を使っている時は、シャワーを浴びている時だと思う。極端な話、頭などを洗っている時に、水をずっと流しているのと、湯船一杯分くらいの量の水を捨てているのではないだろうか。

このように、細かく決めたことにより、以前よりも効率的に節約できたと思う。

「水を大切にすることは当たり前だ。」と書いてきたが、それ以前の人々もいる。つまり、水を自由に使うことができない人たちだ。

調べてみると、水を自由に使えない人は、約六億六千三百万人いることが分かった。その人々は、危険の多い水を使って生活している。しかし、よく広告で目にするユニセフというボランティア団体などによって、きれいな水を使える人々が増えたことを知った。

ここまで、水を使うことについて書いてきたが、水は使うだけの物なのだろうか。水は、生き物の家でもあるのだ。

水は海として、地球の約七割を占めている。とて

も広い場所だ。そのため、人は「水が無限にある」と思ってしまったのではないだろうか。無限とは思っていないけれども、自分が生きている間は無くないと思いきりこんでいる人は多いと思う。僕は無くなることはなくても、使えなくなることは、十分にあると思っている。

海は広い分、影響を受けやすい。人がもたらす汚染水、工場排気ガスによる地球温暖化、これらによって自分たちの生活にも大きな被害が出てしまうかもしれない。こうなってしまうのは自業自得だ。こうならないためにも地球上に住む人々が、「当たり前」のように自然環境を維持する取り組みをして欲しい。

インターネットで調べてみると、「当たり前」という言葉の対義語は「有り難い」だった。なんだか意外な感じがしたけれど、なぜだか、すんなり胸に入ってきた。環境保全に取り組んでくれている人々に「水を当たり前に使わせてくれて有り難いです。」と僕は伝えたい。